

事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日:令和 5 年 12 月 14 日

公表:令和 6 年 1 月 24 日

事業所名 愛育学園すみれ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		密にならないよう、療育の内容により室内を広く使用し、個々のスペースが狭くならないように工夫し配置設定している。	今後も密にならないような環境設定をしていく。
	2	職員の配置数は適切である	10		・適切な人数で手厚く配置している。 ・各部屋に職員が居るようにしている。	引き続き適切な配置をしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	2	・バリアフリー化はしていないが、子どもの特性や動きに応じてマット等を敷いている。 ・段差などは都度職員が介助をし、危険のないよう気を付けて対応している。	・質の良い民家なのでバリアフリー化ができていないため、整理整頓をしスペースを最大限取るようにしていきたいながら、危険がないよう職員同士、声を掛け合うことで注意を払っていく。 ・夏場に庭で水あそびを行う際、縁台から地面までの高さがあり危険なので、早急に改善していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10		・常に換気に気を付け消毒をこまめにしている。 ・子どもが活動しやすいように、玩具の配置を替えたり、タイルマットの張り替えを行った。	今後も換気や消毒の徹底、清潔な空間を心掛けていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10		ミーティングやSNSツールを活用し、勤務時間の重なりが少ない職員も把握できるように、効果的な共有を毎日行っている。	今後も継続していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		年に一度、評価を実施しており、次年度に向けて改善点などを職員全体で話している。	いただいた意見を検討しながら、改善を進めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		次年度に向けて評価を討議し、改善点なども含め、ホームページで公表している。	今後も公開していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2	外部評価を行ったことで、仕事に対しての反省点や向き合い方が改善につながった。	今後も継続していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	2	外部研修への促しは行っているが、参加の機会が少ない。毎月の内部研修や、協議会への参加は積極的にしている。	外部研修はリモートでの参加を活用しながら、学びの場を確保できるようにしていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		年二回の面談、送迎時や連絡帳などで常に保護者と密に話し合っ情報共有し、一人ひとりの特性に合わせて作成している。	今後も保護者とのやり取りを密にし、作成していく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		入園後の聞き取り時において、アセスメントシートを活用している。	今後も活用していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		年2回の面談時、家庭の様子や保護者の要望、園での様子をお伝えし、それを基に支援内容を設定している。	今後も継続していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		毎月のミーティングにおいて、計画に沿った支援が行われているかの振り返りを行い、支援を行っている。	今後もしっかりと行っていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1	限られた職員が作成しているが、他の職員にも意見などを求め、取り入れながら立案している。	意見交換を大事にしながら行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		製作などは、前年度や前後の月と同じ手法にならないようようにして取り入れている。	意見交換を大事にしながら行っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9		子ども一人ひとりの成長を鑑み、粗大運動・微細運動をそれぞれ取り入れながら、作成している。	専門家の助言を取り入れながら、今後も作成していく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	1	朝のミーティングで行うようになっているが、準備や作業などが重なり、十分な時間が取れない時があるので、全員でしっかり行うように努める。	行動や準備も含め、有効的な時間活用を心掛け、しっかりと確認していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		その日のミーティングで、反省点や疑問点、気になった点等、話すようにし、退勤時間が早い職員や出動ではない職員も把握できるようなSNSツールを利用し、職員全員で共有している。	引き続き職員間で共有していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		保育日誌とは別に、その日の保育記録をSNSツールで共有し、それを一人ずつ一ヶ月ごとに支援記録としてまとめて、改善や検証などに繋げている。	今後も継続していく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		入園時にモニタリングを行い、半年を目安に段階に応じて見直しをしている。	今後も必要に応じて見直しをし、保護者に伝えていく。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		主に児童管理責任者と副施設長が参画している。	今後も積極的に参画していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10		必要に応じて他の関係機関と連携を図ると共に、関係機関の方に訪問していただき、支援の仕方等のアドバイスを受け、より良い支援に繋げている。	連携を大切に今後も継続していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6		今年度は医療的ケア児の在籍はないが、在籍がある時は看護師が保護者から直接情報を得た後、職員間で共有を行っている。また、協力医にはいつでも連絡できる体制は整えている。	今後も保護者を通じて情報共有し支援していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5		今年度は医療的ケア児の在籍はないが、在籍がある時は療育中に何かあった場合も含め、協力医療機関とすぐに連絡を取れるようにしている。	今後も引き続き連絡体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		必要に応じて保育所や幼稚園と連絡を取り合い、訪問・見学等の連携を行いながら相互理解を図っている。	在籍児の幼稚園や保育園などに訪問できる機会を、今後更に増やしてより良い療育に繋がれるようにしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	3	保護者や関係機関、支援シートを介し、情報共有を図っている。	支援シートは分かりやすくポイントを押さえた記述をするよう、今後も心掛けていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10		専門機関と連絡を取り合い、連絡会への参加や、関係機関の方に訪問していただき、支援の仕方等直接の助言を受けている。	引き続き連携し、職員全体のスキルアップに繋げていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	8	近隣に交流できる園がなく直接的な交流ができないので、公園や散歩の時間を増やし、交流の機会が持てるようにしている。	未就園の子どもは、当園に安心して通園し生活習慣を身に付けることを重要視し、保育所や幼稚園に通園している子どもは、ゆったりと過ごせることを心がけているので、特別に機会を持つことはしていないが、必要に応じて検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3	積極的に参加できていない。	今後は積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		連絡帳や面談を通して共通理解や共通認識を持って療育をし、毎回の送迎時に状況を伝えることを常に行っている。	今後も継続していく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3	ペアレント・トレーニング等のプログラム実施は行っていないが、相談や助言はいつでも対応できるようにしている。	研修を取り入れ、職員のスキルアップに努めていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		入園時や年度初めに説明を行うと共に、質問などは常に受け付けている。	今後も丁寧な説明を行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		年2回面談を行い、保護者と目標を定めて支援計画を作成し、同意を得ている。	今後も丁寧な説明を行っていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		年2回の面談の他、いつでも相談等に応じられるよう話しやすい環境を作ると共に、職員間で話し合い、助言や支援を行っている。	今後も保護者に寄り添った支援をしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		・要望に応じて施設の空き室を提供し、茶話会等ができるようにしている。 ・年度初めに保護者会と秋のバザー開催、親子遠足や4年ぶりにクリスマス会での食事も実施できた。	今後も保護者の要望に添えるよう支援していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		相談や申し入れがあった場合は、快く受け入れ、迅速な対応ができるような体制を整えている。	引き続きいつでも対応できるようにしていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		行事予定は毎月の月案でお知らせし、年2回の会報を発行する他、定期的な日々の子どもたちの写真の掲載、ホームページ等で活動を発信している。	引き続き行っていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		・入園時と年度初めの保護者会にて説明し、ホームページや会報などで写真掲載について保護者に同意書を配布し、それに基づき掲載している。 ・契約書等の個人情報管理も徹底して行っている。	今後も十分注意していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		共通のサインを用いて意思疎通を深めたり、分かりやすいイラストも載せたお知らせをするなど、必要に応じて行っている。	必要に応じて行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	3	秋にバザー開催をすることができた。事業所周辺の掲示板にポスターを掲示し、地域住民の方にもいらしていただけた。	バザー開催が難しいので、今後も地域ボランティアを積極的に受け入れていく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	1	今年度、各マニュアルを新たに策定し、保護者に配布し周知することができた。来年度以降も必要に応じて見直ししていきたい。	防犯マニュアルは至急作成し、他のマニュアルについては改善点なども含め見直しをしていく。また、保護者にもしっかり周知する。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		月1回、避難訓練を行っている。	引き続き避難訓練を行い、引き取り訓練も検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	1	入園時の聞き取りで、保護者から状況を確認し、得意ごとに状況の変化がないか保護者に確認を行っている。服薬の取り扱いは、登園時に直接伝えていただいた上、更に与薬記入票に記載して二重で伝えていただくようにしている。	今後も継続していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	2	医師の指示書ではなく、保護者の指示により対応し、給食担当と職員が常に確認できるようにしている。	今後も周知徹底していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		保育記録のSNSツール及びヒヤリハットノートを活用し、職員間で都度共有できるようにしている。	引き続き情報共有をしていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1	研修機会が少ない分、日々の振り返りやスタッフ会議を通じて常にオープンに話し合い、適切な対応や療育の統一感について常に協議している。	研修機会を増やすとともに、引き続き協議をしっかりと行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10		療育の中でやむを得ず身体拘束を行う場合は、職員全員で話し合いをしてから決定、共有するとともに、必ず保護者の同意を得てからするように徹底している。	現時点で身体拘束をする必要性はないが、座位保持が不安定な場合については職員間で話し合い、保護者の同意を得た上で行うということは、今後も徹底していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。